

議案第14号 令和3年度松田町一般会計

【討論】

委員会報告「修正」の為、

町長の提案に対する賛成・反対、委員会の修正案に対する賛成の順に行います。

※掲載は討論順(原案賛成・原案反対・修正案賛成)

原案（町長が提出した予算案）に賛成の 討 論

平野 由里子 議員

議案第14号、令和3年度予算案に原案賛成の立場から討論します。

今回の争点は4つ、新松田駅北口駅前広場整備、ジビエ処理施設、再生エネルギー補助金、議会タブレット導入です。

委員会ではこのうち、新松田駅北口駅前広場詳細設計業務委託料の債務負担行為1億2500万円を削除する修正を行いました。他は凍結要望です。

駅周辺整備は第6次総合計画に明記されています。この総合計画は2018年春、町民アンケートから始まり、町民も含む審議会が何度も検討して作り上げ、議案として出され、議員の賛成多数で2019年春、承認されました。

その時も財政推計と共に検討しました。懸念されていたのは、実質公債費比率が2035年に13.4%という事でした。その前後の年も13%台前半の予測でした。

今回の財政推計では、2034年に13.0%が最高で、前後の年々々12.6%、12.9%となり、僅かながら改善です。

他市町の議員からは、総合計画審査に財政推計も見ることに驚かれます。当議会は、数字の裏付けもして、総合計画を議決したのは誇らしいことです。

ではなぜ今回、その目玉と言うべき新松田駅北口整備を削除するのでしょうか。財政推計を鑑みということですが、財政指標は総合計画の時と比べて悪化したわけではなく、むしろ改善しているのは先述の通りです。コロナの影響も指摘されましたが、松田の税収減収率は2.2%で、県下最小です。

詳細設計に入れば現実となり後戻りできない、という意見がありましたが、現実が見えてきたからストップすると言うのは、どうなのでしょう。これまでも準備してきて、やがてこの段階を迎えることが最初からわかっていたのに、見えたらストップ、と言うのは驚きます。

一旦止めて勉強会をする、という意見もありましたが、勉強会をするなら、もっと早く始めていればと悔やまれます。議員の勉強のために計画中断、とは、町民の理解が得られるのでしょうか？

議会のチェック機能、ということをも改めて考えてほしい。私も議会の機能の一つとして重要だと思っています。今回のように大きな数字が示されれば、立ち止まって考えたい。それは誰だってそうです、議員でなくても、大きな買い物をする時には不安になったり慎重になったり、時にはキャンセルすることもあります。

しかし議員のチェックが、それと同じで良いのでしょうか？先般の公園条例改正では有料化に多くの議員が反対しました。公園は有料化してはならない。そう、私だって、タダで使っていたものを有料にするなんて、と個人としては思います。

各事業について数字が示されて、これは大きな出費だ、施設は無料がいい、と言うことは誰でもできます。それが議会のチェック機能であれば、議員は町民のローテーションでもいいと思います。

議員がチェックをする際、考慮しなくてはならないのは、総合計画であり、町づくりに対するビジョンであり、また議員一人一人の公約です。それは絵に描いた餅でしょうか？綺麗事を並べただけでしょうか？

総合計画承認後の議員選挙で、駅周辺事業を公約にはっきり書いた議員もいます。今回凍結要望した再エネについて謳った議員もいます。町の活性化、人を呼び込みにぎわい創出、農林業再生などの言葉を選挙で使わなかった議員がいるのでしょうか？

総論賛成・各論反対という現象がたびたび起きるのは何故でしょう？理想と現実が違う、ということでしょうか？魔法はありません。目指すビジョンに、少しでも近づくために、まず一歩踏み出さなければ、いつまでも絵空事です。

その一歩がとても難しい。誰だって怖い。でも、やらなければ、昨日と同じ明日、去年と同じ来年、ただ人口減少は進む。町はじわじわと寂れる。やがて近隣の町に重要施設ができたりしたら、松田は二度と浮かんでこ